

獨協大学国際教養学部言語文化学科所属 専任教員2019年度研究業績一覧

(2019年4月～2020年3月までに一般に公開された各専任教員の研究業績の一覧)

明田川 聡士

論文 (単著)

- ・「歴史と文学のはざまで一戦後台湾人作家・李喬による太平洋戦争の記憶」
 (『マテシス・ユニヴェルサリス』第21巻第2号、獨協大学国際教養学部、
 2020年3月、1～39頁)

書評

- ・「新刊紹介—李喬著『思想 想法 留言』」(『植民地文化学会報』第19号、植民地文化学会、2019年3月、16頁)
- ・「台湾・台南における文学作品の奥深さ—大東和重著『台南文学の地層を掘る—日本統治期台湾・台南の台湾人作家群像』(関西学院大学出版会、2019年)を読む」(『野草』第104号、中国文芸研究会、2020年3月、83～88頁)

口頭発表

- ・「遊走於歴史與文學之間—戦後臺灣人作家・李喬的太平洋戦争記憶」(第三屆戦後亞洲文學與文化傳播國際工作坊、於横浜国立大学、2020年3月5、6日)

浅山 佳郎

論文

- ・「発話において述語はいくつの名詞句と結合するか—日本語談話における述語句の基本型」『獨協大学日本語教育紀要』NO.13. 獨協大学大学院外国語学研究科日本語教育専攻. 2019年8月. pp.25-47

その他

- ・「西周と日本語改革論」埼玉県大学短期大学図書館協議会会報『SALA』No.28. 2020年3月.

安間 一雄

論文 (単著)

- ・“Partial scoring of reordering tasks: Maximal Relative Sequence by Excel.”
 Proceedings of 2019 IEEE 2nd International Conference on Information

and Computer Technologies (ICICT), pp.19-24. ISBN : 978-1-7281-3322-5. DOI : 10.1109/INFOCT.2019.8711372. <https://ieeexplore.ieee.org/document/8711372> (2019年5月14日)

口頭発表

- ・“Willingness to Participate: a Hidden Third Dimension in Target Language Development.” (上智大学英語教員研究会第220回例会, 2019年10月19日)
- ・「整序問題の過去・現在・未来」(獨協大学情報学研究所研究報告会, 2019年11月27日)

臼井 芳子

口頭発表

- ・ The effects of joining a collaborative community of practice on the professional development of EFL student teachers in Japan, (Association for Teacher Education in Europe 2019, 於 Bath Spa University, 2019年8月15日, 共同)
- ・ Building a collaborative community of pre-service EFL teachers to facilitate their professional development, (JACET第58回国際大会, 於名古屋工業大学, 2019年8月29日, 共同)

浦部 浩之

著書 (共著)

- ・『新世界の社会福祉10：中南米』宇佐見耕一編 (「第6章：チリにおける社会保障・社会福祉制度の形成と展開—先進国化への道と新たな連帯の模索」201～229頁を分担執筆、旬報社、2020年3月)。
- ・『資源地政学—グローバル・エネルギー競争と戦略的パートナーシップ』稲垣文昭・玉井良尚・宮脇昇編 (「第8章：ラテンアメリカにおける資源通過と紛争—ボリビアの天然ガス輸出計画と社会紛争」137～154頁を分担執筆、法律文化社、2020年3月)。

論文

- ・「国際選挙監視活動と2014年ウクライナ大統領選挙—OSCE選挙監視団への参加もふまえて—」(『マテシス・ユニヴェルサリス』第21巻第1号、獨協大学国際教養学部、2019年10月、1～25頁)
- ・「2014年ウクライナ議会選挙と東西地域性—OSCE選挙監視団への参加もふ

まえて—」（『マテシス・ウニウエルサリス』第21巻第2号、獨協大学国際教養学部、2020年3月、1～30頁）

記事等

- ・「2018年学会展望：中南米比較政治・地域研究」（『年報政治学』2019年II号、日本政治学会、2019年12月、365～367頁）
- ・「自然災害とその記憶—ハイチ、チリ、三陸—（国際セミナー報告：我々は自然災害にいかに向き合うべきなのか?）」（『環境共生研究』13号、獨協大学環境共生研究所、2020年3月、107～112頁）

翻訳

- ・「チリの都市計画・公共住宅政策における社会自然的・人的な災害に対するリスク管理：2010～2019年」リカルド・タピア著（『環境共生研究』13号、獨協大学環境共生研究所、2020年3月、113～121頁）

事典（共著）

- ・『現代地政学事典』現代地政学事典編集委員会編（「中南米の脱植民地化とナショナリズム」354～355頁を分担執筆、丸善出版、2020年1月）

口頭発表

- ・「2017年チリ選挙—選挙制度改革はどこまで政党制を変えるのか—」（日本ラテンアメリカ学会第40回定期大会、2019年6月）
- ・「南米大陸の内陸国ボリビアとパラグアイの安全保障とエネルギー」（立命館大学国際地域研究所重点プロジェクト主催シンポジウム「資源と環境にみる内陸国の安全保障」、2019年8月）
- ・「Desastres naturales y sus memorias. Haití, Chile y Sanriku (Japón）」（獨協大学環境共生研究所主催国際セミナー「¿Cómo debemos enfrentarnos a los desastres naturales?」、2019年11月）

社会活動

- ・欧州安保協力機構（OSCE）ウクライナ大統領選挙（第1回投票）選挙監視員（日本国外務大臣依嘱）、2019年3～4月
- ・欧州安保協力機構（OSCE）ウクライナ大統領選挙（決選投票）選挙監視員（日本国外務大臣依嘱）、2019年4月

岡村 圭子

著書 (単著)

- ・『団地へのまなざし：ローカルネットワークの構築に向けて』新泉社、2020年1月

川村 肇

著書

- ・生活指導とは何か
(2020年3月、高橋陽一・伊東毅編『これからの進路指導と生活指導』武蔵野美術大学出版部刊、第3章、53～68頁)
- ・生活指導の方法
(2020年3月、高橋陽一・伊東毅編『これからの進路指導と生活指導』武蔵野美術大学出版部刊、第4章、69～85頁)

その他

- ・堀尾輝久著『人権としての教育』に寄せて
(2020年1月、『季論21』本の泉社刊、第48号、132～142頁)

呉 浩東

研究報告 (単著)

- ・「マルチドメインにおける対話について」(『マテシス・ウニウエルサリス』第21巻第2号、2020年3月、獨協大学国際教養学部、pp.211-223.)

高 恩淑

著書 (共著)

- ・『日本語のテンス・アスペクト研究を問い直す1』田川拓海・庵功雄(編) (『日本語と韓国語のテンス・アスペクト形式について』、ひつじ書房、2019年11月、163～186頁)

口頭発表

- ・『(過去に)～シタカ』に対する『シナカット』と『シテイナイ』の使用条件
(日本語文法学会第20回大会 (於：学習院大学)、2019年12月)

小宮 秀陵

著書（共著）

- ・『문자와 한국 고대 2 교류와 생활』 한국목간학회편（「고대 탐라와 일본」, 주류성, 2019年10月, 183~195頁）

論文（単著）

- ・「ソウル大学校東亜文化研究所の設立と初期の活動について」『マテシス・ウニヴェルサリス』第21巻第2号, 獨協大学国際教養学部言語文化学科, 2020年3月, 47~61頁

新刊紹介

- ・「古畑徹著『渤海国とは何か』『唐代史研究』第22号, 唐代史研究会, 2019年8月, 217~220頁

口頭発表

“Historical significance of building stone monuments in sixth-century Silla”
“Beliefs and Cultural Flows of East Asia in the Late Antiquity and Medieval Period” Forum, Collège de France, Salle4, 16-17 October 2019

齋藤 哲

資料（共著）

- ・「沖縄の民事陪審（2）—記録から見た庶民の力—」（獨協法学第108号、2019年4月、295~332頁）
- ・「沖縄の民事陪審（3）—記録から見た庶民の力—」（獨協法学第109号、2019年8月、279~314頁）
- ・「沖縄の民事陪審（5）—記録から見た庶民の力—」（マテシス・ウニヴェルサリス第21巻第1号、2019年10月、81~127頁）

判例評釈（上原敏夫、長谷部由起子、山本和彦／編集）「転付命令（2）—質権の目的たる債権」民事執行・保全判例百選第3版（別冊ジュリスト247号）、有斐閣、2020年1月、126~127頁）

田口 雅徳

口頭発表

- ・「円・三角形の一筆描きにみられる描線動作の文化的特徴（4）日本と台湾の小学生を対象とした比較文化的研究」（日本心理学会第83回大会、2019年9月）

武信 彰

論文 (単著)

- ・「日中同形語とはなにか：多義構造ごと移入した日本語由来の外来語」(『マテシス・ユニヴェルサリス』第21巻第2号, 2020年3月, 63~76頁)

二宮 哲

口頭発表

- ・「{|una/alguna}vezのいくつかの用法について」(SELE 2019 (スペイン語学セミナー), 2019年8月30日)

野原ゆかり

口頭発表

- ・「地域住民による外国人児童生徒の支援の意義と可能性—支援者へのインタビューから—」(カナダ日本語教育振興会 (CAJLE) 2019年年次大会, 2019年8月6日)

朴 鍾厚

論文 (単著)

- ・「K-ポップ歌詞の計量的語彙分析」(『マテシス・ユニヴェルサリス』第21巻第1号, 2019年9月, 獨協大学国際教養学部, pp.49-80)
- ・「韓国語の「의 (ui)」名詞句と日本語の「の」名詞句の対応様相についてのコーパス分析」(『情報学研究』第9号, 2020年2月, 獨協大学情報学研究所, pp.14-21)
- ・「日本の大学の非専攻韓国語学習者の韓国に対する関心度」(『マテシス・ユニヴェルサリス』第21巻第2号, 2020年3月, 獨協大学国際教養学部, pp.135-168)

論文 (共著)

- ・「기관지 『조선』 소재, 출판 관련 기사 (1) (朝鮮総督府機関紙『朝鮮』所在, 出版関連記事 (1))」(『近代書誌』, 2019年6月, 近代書誌学会, pp.131-145)
- ・「일본 대학에서 비전공 한국어 과목 수강자의 수강 동기에 대한 현황과 추이 (日本の大学における非専攻韓国語受講者の受講動機についての現況と推移)」(『外国語としての韓国語教育』第55号, 2019年10月, 延世大学校言語

教育研究院、pp.119-156)

口頭発表

- ・ 日本 대학에서 비전공 한국어 학습자의 수강동기 및 관심 분야의 변화에 대한 분석 (日本の大学における非専攻韓国語学習者の受講動機及び関心分野の変化についての分析) (第31回韓国学研究会発表会、2019年7月)
- ・ 日本の大学における非専攻韓国語学習者の関心分野に関する分析 (第6回朝鮮語教育学会・朝鮮語研究会合同大会、2019年9月)
- ・ 日本の大学における非専攻韓国語学習者の受講動機及び関心分野についての分析 (第1回山東大学「多文化研究と学際的教育」の国際シンポジウム、2019年9月)
- ・ 学習者中心の外国語教育のための一考察—日本の大学における非専攻科目としての韓国語教育の場合— (第3回戦時日本語教育史研究会研究大会、2019年12月)

安井 一郎

著書 (共著・分担)

- ・ 『三訂 キーワードで拓く新しい特別活動 平成29年版・30年版学習指導要領対応』日本特別活動学会編 (「学問としての特別活動 (特別活動学)」、「教員養成における特別活動の指導法」東洋館出版社、2019年8月、120~121、142~143頁)

著書 (編集・解題)

- ・ 『戦後初期コア・カリキュラム研究資料集 西日本編』全3巻、金馬国晴・安井一郎、クロスカルチャー出版、2019年9月

論文 (共著・分担)

- ・ 「学級活動でOECD準拠型コンピテンシーを育成するための指導方法の開発に関する研究—小金井第二小学校の話合い活動を事例として—」(林尚示・安井一郎・鈴木樹・眞壁玲子、『日本学校教育学会年報』1、2019年7月、36~52頁)

口頭発表

- ・ 「集団や社会の形成者を育てる特別活動—児童生徒主体の学校生活づくりと特別活動の課題—提案3 次世代の教育と児童生徒主体の学校生活づくりの課題」(日本特別活動学会第28回大会課題研究、沖縄大学、2019年9月15日)

口頭発表（共同研究発表）

- ・「特別活動でOECD準拠型コンピテンシーを育成するための指導方法の開発に関する研究（2）—The OECD Learning Compass 2030と学級活動との対応に着目して—」（林尚示・安井一郎・鈴木樹・眞壁玲子、日本特別活動学会第28回大会自由研究発表、那覇市立松川小学校、2019年9月14日）

山本 英政

- ・エッセイ「なぜ、ハワイ」、pp.70-77、『思想の科学年報、創刊号』2019年9月25日、思想の科学研究会発行
- ・「思想の科学研究会、七〇年座談会」、pp.42-61、『思想の科学年報、創刊号』2019年9月25日、思想の科学研究会発行

依田 珠江

著書（共著）

- ・『栄養科学シリーズNEXT 人体の構造と機能 解剖生理学』河田光博・三木健寿・鷹股亮 編（「3.3 骨と筋運動のしくみ」28～31頁「12. 1 神経による制御のしくみ」133～138頁、講談社、2020年1月）

翻訳

- ・『スポーツコーチのためのトレーニング生理学』ヤン・バングスボ著、安松幹展・宮城修監訳（「第9章 運動中のエネルギー基質の利用」89～96頁、「第10章 体温調節」97～104頁、大修館書店、2020年2月）

研究ノート（共著）

- ・「パントマイムの「壁」の見えやすい演技の探索」依田珠江・諏訪さちこ・彼末一之（『マテシス・ユニヴェルサリス』第21巻第2号、獨協大学国際教養学部、225～231頁、2020年3月）

林 永強

著書

- ・藤田正勝、林永強編『近代日本哲学と東アジア』臺大出版中心、2019年6月。担当執筆：第六章「和辻哲郎の間柄—儒教から徳倫理学へ」、175～198頁。

口頭発表／講演

- ・“Bodily pathos and virtue ethics : Revisiting Miki Kiyoshi’s logic of imagination.” International Conference on “East Asian Ethics : Will and

Conduct”. Department of Chinese Literature, National Taiwan University, 30 April 2019.

- “Hermeneutics of betweenness : On Watsuji Tetsurō’s *fūdo*.” An invited lecture given at Department of Asian and International Studies, City University of Hong Kong, 19 September 2019.
- “Nishida Kitarō as a New Confucian”. International Conference on “A New Horizon in Peoples, Cultures, Thought, the Sea and Economies.” The Institute of East Asian Humanities and Social Sciences, Chinese Culture University, Taiwan, 4-5 October 2019.
- 「日語與哲學：以「こと」（事）一詞為軸心」國立臺灣大學日本研究中心，招待講演、2019年10月7日。
- 「情感與身體：三木清的行為哲學」國立臺灣師範大學東亞系、招待講演、2019年10月7日。
- “Sentimental ethics : On Miki Kiyoshi’s philosophy of action.” The Fourth International Conference of International Association of Japanese Philosophy, University of Hawai’i, 13-14 October 2019.
- “Nishida Kitarō as a classical Confucian moral philosopher : Reconfiguring “the actualization of personality”. The First International Conference of International Society of East Asian Philosophy, Meiji University, 14-15 December 2019.

